

新連載

作業療法士が解説!

リハビリ視点

で押さえる 支援のポイント

vol. 1

脳血管疾患①

片麻痺と感覚障害

リハ職の視点でケアマネジメントに活かせるポイントを疾患別に詳しく解説します。

高橋春美

医療法人社団輝生会 在宅総合ケアセンター元浅草 サポート部長



症状とよくある利用者像

脳血管疾患

よくある利用者像

- 脳梗塞によって左片麻痺と感覚障害を生じた。左の手足は動かせるものの、ぎこちない。
- 短下肢装具を使用している。

症状》片麻痺・感覚障害

片麻痺があると、思うように手足を動かすことが難しくなります。また、感覚障害があると、触ったり、けがをしたりしてもわかりにくいことがあります。発症前とは違う身体の状態で生活動作を行わなければならないため、動作に時間がかかったり、できていたことがうまくできなくなったりします。

装具》短下肢装具

下肢に運動麻痺があると、膝下から足部までの装具を使用することがあります。これは短下肢装具と呼ばれるもので、個々の身体の状態に合わせてつくられているため、形はさまざまです。装具なしで立位や移乗、歩行ができるか、一人で装具の着脱ができるかなどをチェックする必要があります。

1 リハ職はココを見る! アセスメントのポイント

起居動作

☑床に座れるか/床から立てるか

床に座る、床から立ち上がるという動作は、転倒時に立ち上がるために必要ですが、本人・家族が動作方法を理解していないこともあるため、確認しておきましょう。

移動動作

☑裸足で数歩でも歩けるか

浴室内では装具がつけられないため、裸足で歩ける

か、歩けない場合はどのように移動するかを確認・検討しておく必要があります。

整容動作

☑爪切りはどのようにしているか

麻痺側の手の爪は切れても、非麻痺側の爪は一人では切れないという人も多いです。また足の爪を切ることも難しいという人も少なくありません。



Takahashi Harumi

一般病院、訪問看護ステーション等で勤務する傍ら、訪問業務にかかわってきた。2002年、医療法人社団輝生会に入職し、外来や訪問など生活期の業務に従事。2022年4月より現職。作業療法士。

入浴動作

☑非麻痺側の上半肢はどのように洗っているか

片麻痺があると、非麻痺側の上半肢や麻痺側の足部を洗うことが難しいことが少なくありません。どこまで一人で洗体できるかを確認しておきましょう。

更衣動作

☑更衣動作をどこまで行えるか

かぶりの服も、前開きの服も一人で着脱できるか、靴下の着脱ができるかを確認しておきましょう。

健康管理

☑1日の運動量はどれくらいか。



2 リハ職が教える ケアプラン作成のポイント

注意
点①

過介助によって 本来できる動作ができなくなる

対応

自分でできることは、 自分でしてもらう方法を考える

病前との身体機能の違いや不慣れな動作方法によって、動作に時間がかかったり、不安定に見えたりすることがあります。自分でできることは自身で行ってもらうとともに、家族などが介助しすぎているか確認が必要です。短期間でも訪問リハを導入するなど、専門家の視点を取り入れながら、本人のできること・できないことを見極めましょう。

注意
点②

運動不足による体力・筋力の低下

対応

利用者の状態・生活に合った 運動習慣を取り入れる

運動の機会の減少は、体力や筋力の低下を招くだけでなく、生活習慣病を悪化させるおそれもあります。散歩などの運動の習慣がある利用者であれば、そうした機会を保つことができるのか、運動の習慣がない利用者であれば、サービスを導入して運動の機会を創出できるのかを、利用者の状況に応じて検討していきたいところです。



3 プロ直伝! モニタリングのポイント

装具は毎日使用するものなので、劣化していきます。また、下肢の状態が変化することで、これまで使っていた装具が合わなくなることもあります。装具が使えないと、歩行が困難になり、生活にも大きく影響するため、定期的に確認していくことが必要です。

装具に不備が生じたときの 相談先や対応方法を明確にしておく

また、退院した病院に相談することでサポートを受けられるのか、利用中のリハサービスで対応してもらえるのかなど、装具に不備が生じたときに、どこへ相談すればよいのかを事前に確認しておきましょう。